



【めざす児童像】

☺: 思いやりのある子

☺: さわやか元気な子

☺: ばっちり学ぶ子

人生に無駄なことは何一つ無いと「信じる」

校長 高田 修司

以下は、私がかつて勤務していた学校で、先輩の先生からお聞きしたお話です。

僕は小学校の頃は算数が苦手で、いつも通知票は「もうすこし」だったんだ。

でも、中学校になったある日、科学雑誌を読んでいると、「算数が苦手な子は、扉や引き出しを開けっ放しにしたり、服を脱ぎっぱなしにしたりする子が多い。」という記事があってねえ…。

『そういえば、自分は〇〇っぱなしが多いかも…?』
と考えたんだ。

僕はその日から

「トイレから出たら必ず扉を閉める」

「学校の椅子を机にちゃんと入れる」

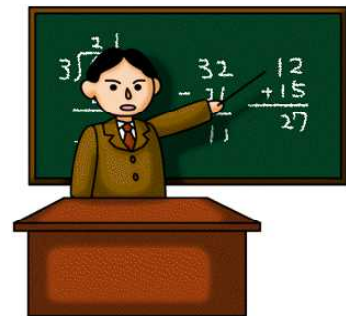
「脱いだ靴は必ずその場で揃える」

ということを心がけるようにしたんだ。

すると…、どうしたことだろう！

通知票で「2」だった数学が、何と「4」に上がったんだよ！

それ以来、数学が大好きになって…今、数学の先生をやってるってワケだ…。



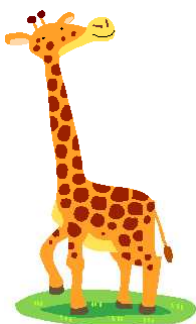
この場合、「算数（数学）が苦手なことを克服しよう」として、「別のことを心がけ」たら、成果が上がった、というわけです。

つまり、この逸話を分析すると、

『一見つながりそうにない別の行動が、全く異なる能力を伸ばすことと実はつながっていた！』

ということが言えそうです。

理科で塩酸の性質を勉強して何の役に立つの？社会で織田信長が何をしたか知らなくても将来困らないでしょ？という問いの答えにもなっているかもしれません。



何と何がつながっているか、わかるものもあればわからないものもありますが、何事も、やるかやらないかを決めるのは自分ですし、意義があると思うか無いと思うかを決めるのも、全ては自分自身の問題です。

『幸せはいつも自分の心が決めるのです』（by 相田みつおさん）

まずは心の持ちよう、どんなことでも進んで取り組んでみませんか？

私たち小鯖小学校教職員は、そういう取組も日々大切にしています。

人生において、「無駄なこと」など何一つない、と信じて…。